

## 平成28年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市政協同
議員名	
調査実施年月日	平成28年度10月20日
調査先 自治体名等	愛媛県 松山市
調査項目	都市ブランド推進事業について 松山市総合コミュニティセンターについて
調査目的	都市プロモーション施策と公共施設の集約化による効果について
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先（市町村）の概要 人口：517,126人（H27.10.1現在） 行政面積：429.37 km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容 松山市では、都市プロモーション施策について視察してきました。松山市は、四国最大の都市であり、道後温泉や松山城という非常に魅力的な素材を持っている地ではありながら、市としての知名度が非常に低いという課題がありました。</p> <p>そこで、観光だけではなく、定住・企業誘致・農水産物を含めたまちの魅力の発信を行うために6年前から都市ブランド推進事業を進められています。</p> <p>事業の進め方として、他の都市でよくみられる、代理店に依頼してまとめてもらうという形ではなく、まずは市民や市とかかわりのある方々と一緒に魅力を探る・確認するという作業から事業を始め、その事業の進捗などを都度公表し、事業の視覚化することで、たくさんの方に興味をもってもらい、都市イメージのロゴデザインの市民投票では高い投票率を実現するなど非常に丁寧かつ繊細な事業の組立がされていました。</p> <p>また、都市イメージを視覚化し、発信する媒体として、アニメーションを作っており、非常にクオリティが高く、他の都市との差別化・若者世代への影響力・世界への発信という意味で大きな効果が得られています。</p> <p>今年度からは、その実績を活かして、移住定住策についても展開が広めており、今後の展開にも注目したいところです。</p> <p>今年度、移住定住のパンフレットを作成しておりましたが、シニア世代と若者世代の2種類に分けて作成しており、内容もまちの魅力を数値化して記載しており、非常に魅力的な内容でありました。</p> <p>もう1つの視察先として、松山市総合コミュニティセンターの現地調査を行いました。</p> <p>図書館、体育館、こどもの遊び場、会議スペースなど複合的な施設を長い期間運営されてきており、市民施設の中心的な機能を果たしていました。施設の老朽化や、実施事業のマンネリ化を防ぐ取り組みなどの必要性が課</p>

	<p>題として見られたが、施設機能ごとに指定管理を導入して、それぞれの施設にあった提案をすることで改善に取り組んでいるとのことであった。</p>
<p>感想（まとめ） 本市へ生かせること 等</p>	<p>今回、松山市の施策を勉強させていただいて、企画力、発信力、都市部との連携力など、魅力を引き出し活かしていくために町としてレベルアップさせなくてはいけない要素が具体的に見えました。</p> <p>松山市の人口は50万人。室蘭と比較にならない大きな街ですが、予算を圧縮するため、費用対効果を最大限引き出せるよう、不断の努力をしています。</p> <p>行政と市民での魅力の共有化、職員のモチベーションによるまちづくりの可能性を学ぶ好事例でありました。</p> <p>コミュニティセンターは、本市で作られる生涯学習センターにおいて、指定管理によるそれぞれの施設機能を管理する上での、実践的な例を見ることが出来た。生涯学習センターについては、今後議論が進められるうえで、松山市総合コミュニティセンターの運営は大変参考となるものでありました。</p>